

# LOBO 調査

## 早期景気観測

1月分 日商調査日 1月4日～20日  
当所調査日 1月4日～26日

### LOBO調査とは

全国各地の商工会議所が参加して、日本商工会議所が実施する全国規模の早期景気観測調査。当所ではさらに、会員企業40社の皆さまにも調査へのご協力をいただき、より地域に根差した調査を実施。

#### 日商調査

1月の全産業DI ▲18・4  
(前月比0・0ポイント)

建設業では、設備投資や住宅関連の民間工事が堅調に推移し、業況が改善した。また、小売業では、初売りが好調だった百貨店を中心に、業況が改善した。一方、サービス業では、年始の感染拡大で、新年会のキャンセルが発生した飲食店が全体を押し下げ、業況が悪化した。

また、製造業や卸売業では、外需減退により受注数が減少した電子部品関連を中心に業況が悪化した。経済活動が正常化に向かう一方、原材料・エネルギー価格の高騰、人手不足に伴う人件費など、負担するコストは増加が続いている。コスト増に見合う価格転嫁も十分に行えておらず、中小企業の業況は、横ばいに留まった。

#### 中小企業の景況感

先行き先行き  
先行き見通しDIは ▲19・8 (1月比 ▲1・4ポイント)

経済活動の回復により、設備投資などの受注増への期待感が建設業や卸売業でうかがえる。

一方、業種を問わず、人手不足による受注機会の損失や、高騰が続く電気代などによるコスト負担増を危惧する声が聞かれた。不安定な為替動向などで企業経営が安定しない中、物価高による消費マインドの低下や、欧米などの世界経済の鈍化による外需のさらなる減退も懸念され、中小企業の先行きは厳しい見方が続く。

#### 【関東ブロックの業況についてのコメント】

民間の建設工事は受注数が増加傾向にあり、経済活動の回復が見受けられる。一方、土木工事などの公共工事は減少傾向が続いており、引き続き先行きは不安定な状態が続いている。資材価格の高騰で、価格競争も激しくなっているため、採算も悪くなっている(一般工事業)。

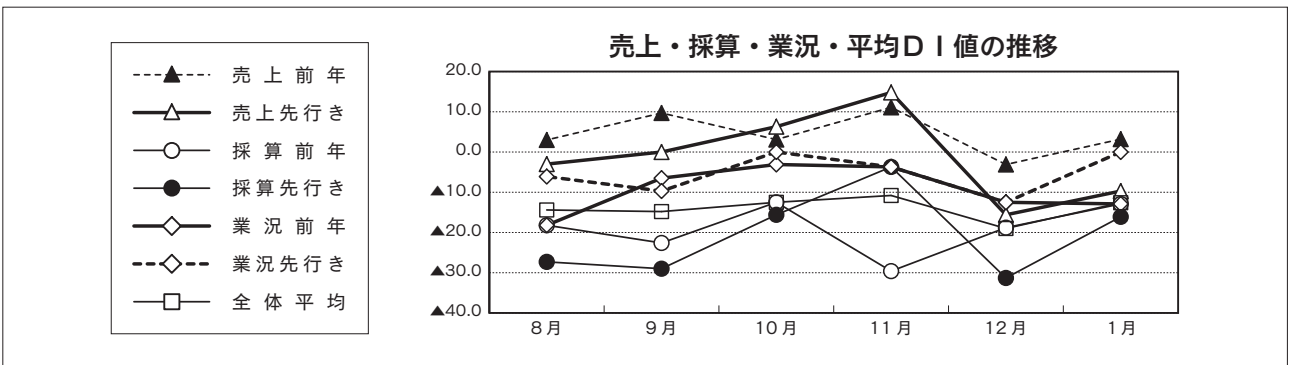
#### 【当所調査】

「景況感は改善したが、仕入れ価格高騰の影響続く」

全体平均DIは ▲12・6で前月に比べ6・4ポイントの改善。項目別では、売上先行き5・9ポイント、採算先行き15・2ポイントの改善が見られた。コメントには「業務環境の好転により、従業員を増員する予定」(労働者派遣業)と景況感改善の傾向が見られる一方、「単価が上昇しても、価格転嫁ができず、採算が悪化している」(靴卸売業)など、依然続く、仕入れ価格高騰による影響も聞かれた。

(全産業) 水戸商工会議所会員企業LOBO調査(DI値推移) (サンプル数40社)

項目	令和4年		令和4年				令和5年
	1月	8月	9月	10月	11月	12月	1月
売上前年	▲ 3.0	3.0	9.7	3.1	11.1	▲ 3.1	3.2
売上先行き	▲ 3.0	▲ 3.0	0.0	6.3	14.8	▲ 15.6	▲ 9.7
採算前年	▲ 9.1	▲ 18.2	▲ 22.6	▲ 12.5	▲ 29.6	▲ 18.8	▲ 12.9
採算先行き	▲ 9.1	▲ 27.3	▲ 29.0	▲ 15.6	▲ 3.7	▲ 31.3	▲ 16.1
仕入前年	▲ 51.5	▲ 72.7	▲ 77.4	▲ 71.9	▲ 77.8	▲ 75.0	▲ 74.2
仕入先行き	▲ 48.5	▲ 63.6	▲ 71.0	▲ 62.5	▲ 70.4	▲ 65.6	▲ 64.5
社員前年	15.2	18.2	19.4	18.8	33.3	18.8	16.1
社員先行き	27.3	21.2	19.4	9.4	25.9	15.6	22.6
業況前年	0.0	▲ 18.2	▲ 6.5	▲ 3.1	▲ 3.7	▲ 12.5	▲ 12.9
業況先行き	▲ 6.1	▲ 6.1	▲ 9.7	0.0	▲ 3.7	▲ 12.5	0.0
資金前年	▲ 9.1	▲ 9.1	▲ 6.5	▲ 15.6	▲ 11.1	▲ 12.5	▲ 3.2
資金先行き	▲ 6.1	3.0	▲ 3.2	▲ 6.3	▲ 14.8	▲ 15.6	0.0
全体平均	▲ 8.6	▲ 14.4	▲ 14.8	▲ 12.5	▲ 10.8	▲ 19.0	▲ 12.6



※DI値(景況判断指数) = (増加・好転等の回答数 - 減少・悪化等の回答数) / 全回答数 × 100。ゼロを基準として、プラス値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナス値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものでなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がり意味するもの。